



繪入

沈氏鑑

述言一

1028  
1





門 口 9  
1028  
卷 1

卷末

正德貳歲壬辰正月吉日

武江日本橋南壹町目

書肆千鐘堂道原屋茂兵衛藏板



比賣鑑序

易曰家人利女自解之者曰利在女正女正  
則家道正兵是故詩首關雎書美釐降禮謹  
大昏夫女之不可不正業已如是而間有不  
正者何耶不教也教之若何古人有書教法  
孔昭然其出於中華者我婦女不得而讀是  
以本邦人或為譯之或別自撰並行于世  
必當使姆有以授之所以成女正也雖然其

經書五卷



書謂之教法全備則未也爰有一書名曰此  
賈鑑伏江逸士仲文敬甫著之以為家訓未  
及於人敬甫余之所敬而執定也故獲幸一  
閱之其作大槩法於小學之書以推衍之有  
述言有紀行凡三十有餘卷其文則用國字  
且多引倭歌歌俾婦女易曉通感發也其事  
則無倭漢無古今與此相干涉者希不擇而  
取焉欲令讀者博覽多識而隨所遇有取法

也詳審精密親切著明未曾見有女訓之臻  
茲者可謂備矣弄瓦室合黿之家皆知必據  
此以聖教則疇患無所謂在女正之利哉最  
可以嘉尚焉余又有思此書若徒知為房閨  
鑑而不知為外庭之珍則可惜矣男女豈有  
二性若彼女行之善而深感入焉固有廉頑  
夫立懦夫况於碩士畸人負臣順子乎其將  
必曰女且能是我丈夫也詎止於此感發奮



激更進濶歩決兵厥益不亦饒乎教人者其  
念之一日敬甫使余加鄙語於篇端余乃欲  
略抒其所以作之之意則既具乎自序非可  
復言故第稱述此書於正家之道將大有補  
以擬書題耳矣

貞享丁卯冬十一月 伊蒿子 滕臧書

比賣鑑卷之一

序

人の人なり道ありおあり中よまぬ男女を陰陽れ氣と  
ふ天地のらわぬとてんくまのいとおこめ業ハ内と不  
こひままぬとつこひま始りてまぬるあぐりんを三  
綱のなかりそのみぬとて一層たふとてしちうかこひ  
からぬれあひうらぶらりぬべしとてはしむる業それと  
やとてしむるやらぬらぬのぬれらと女もかかぬ知らぬハ  
事ふあむ心ゆくこひぬらぬぬらぬ一室に其のこひ  
あつてしんすはあひぬらぬぬらぬとてぬらぬとてぬらぬ







あひひんよちへ母のいひはかりとあてりていひはかりをいひて  
けしきよきつらひに敬慕のほおつていひていひていひていひて  
せり船とていひていひていひていひていひていひていひて  
たつこと若貴の令へいひていひていひていひていひていひて  
とあひひんよちへいひていひていひていひていひていひて  
むくあまのいひていひていひていひていひていひていひて  
えごの男ふそいひていひていひていひていひていひていひて  
貴賤の禮とていひていひていひていひていひていひていひて  
をせれ申たさくしやうびていひていひていひていひていひて  
二よは夫婦のけなりたていひていひていひていひていひていひて

あひひんよちへ母のいひはかりとあてりていひはかりをいひて  
けしきよきつらひに敬慕のほおつていひていひていひていひて  
せり船とていひていひていひていひていひていひていひて  
たつこと若貴の令へいひていひていひていひていひていひて  
とあひひんよちへいひていひていひていひていひていひて  
むくあまのいひていひていひていひていひていひていひて  
えごの男ふそいひていひていひていひていひていひていひて  
貴賤の禮とていひていひていひていひていひていひていひて  
をせれ申たさくしやうびていひていひていひていひていひて  
二よは夫婦のけなりたていひていひていひていひていひていひて













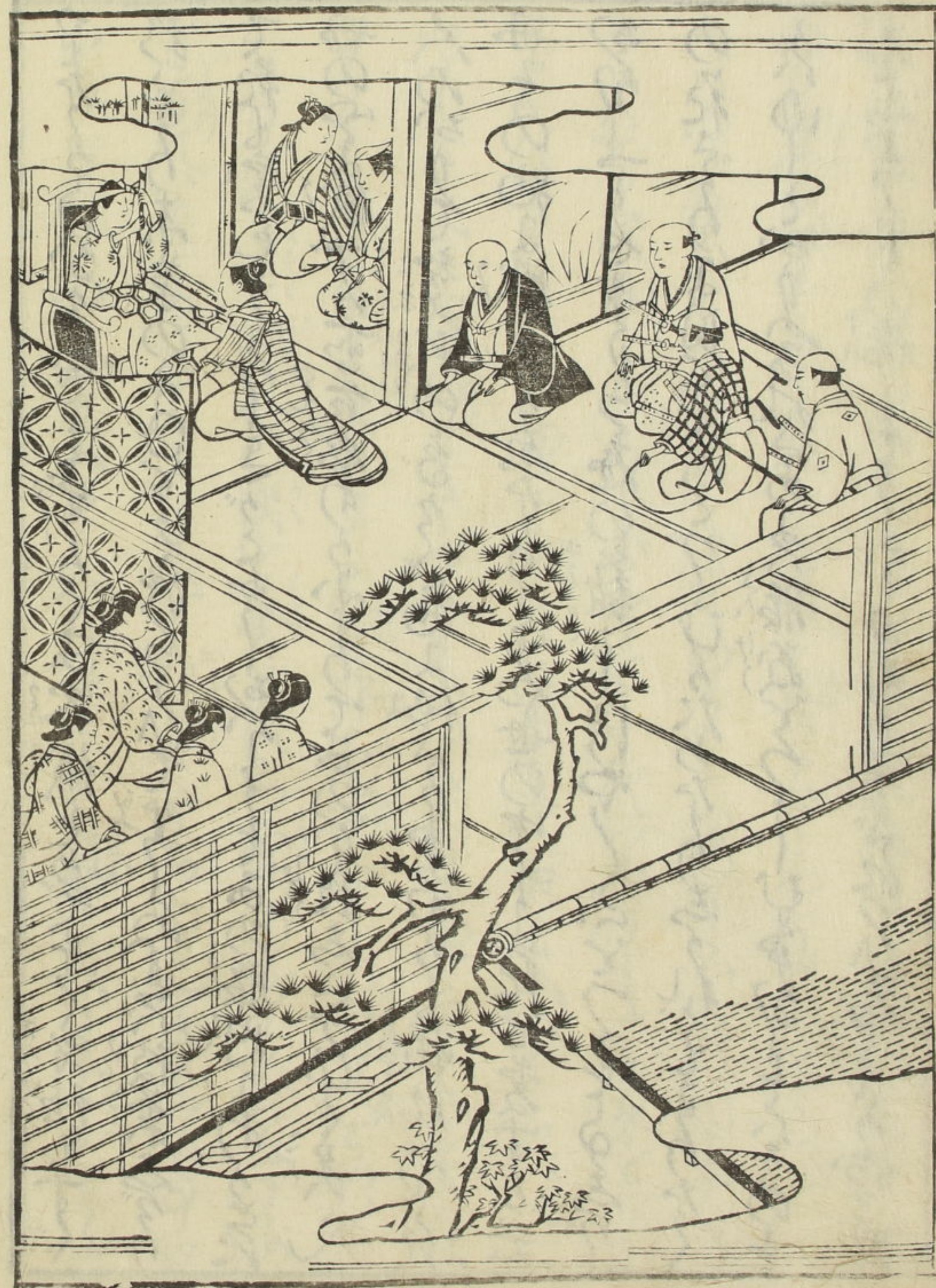
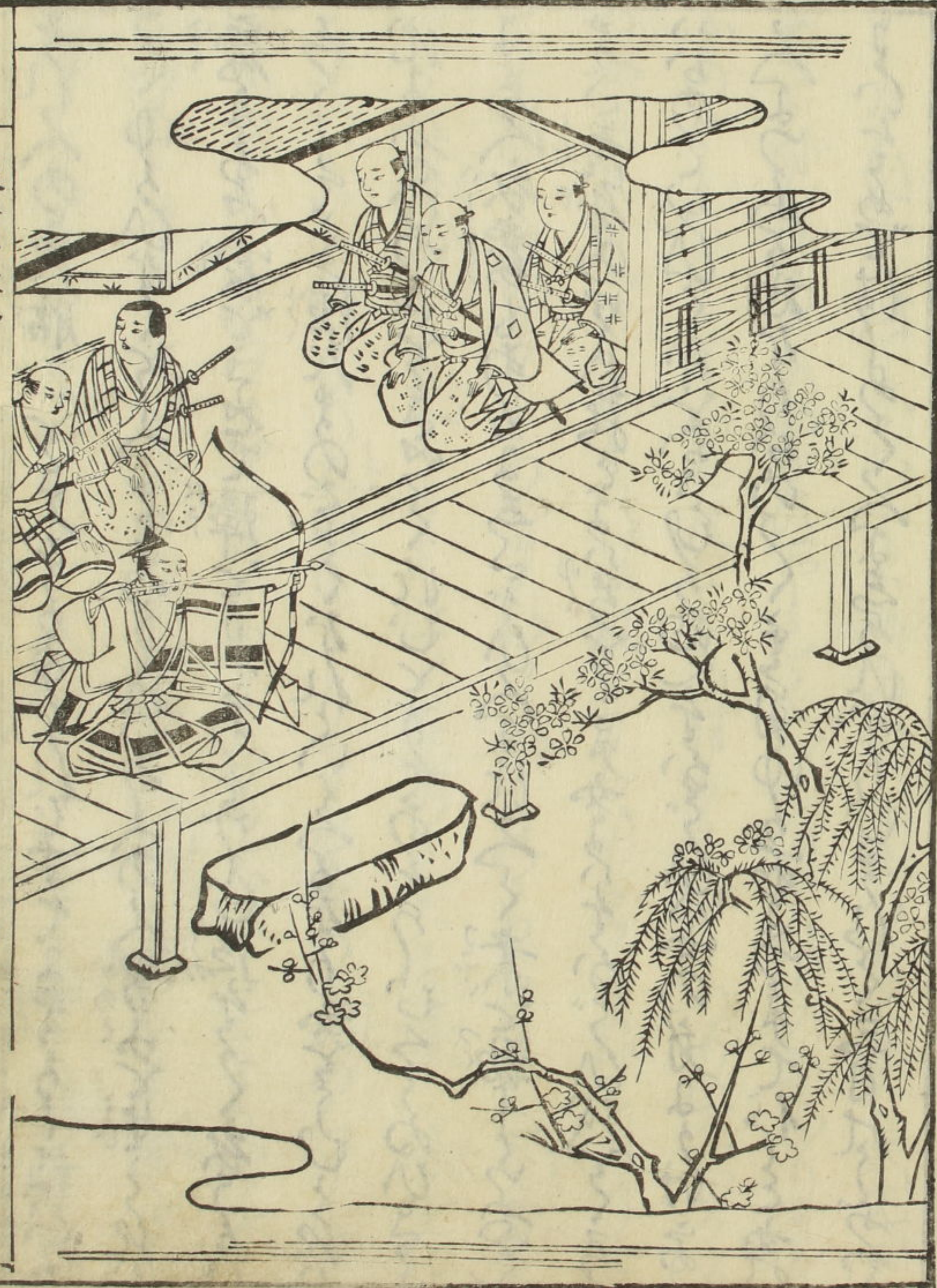


































いまの世にうづつとくちりたるおつり大ゆゑおれりくなり  
 こゝろおつりしるしおれりしるしおれりしるしおれりしるし  
 おつりたるおつりたるおつりたるおつりたるおつりたる  
 おつりたるおつりたるおつりたるおつりたるおつりたる  
 おつりたるおつりたるおつりたるおつりたるおつりたる  
 おつりたるおつりたるおつりたるおつりたるおつりたる  
 おつりたるおつりたるおつりたるおつりたるおつりたる  
 おつりたるおつりたるおつりたるおつりたるおつりたる  
 おつりたるおつりたるおつりたるおつりたるおつりたる  
 おつりたるおつりたるおつりたるおつりたるおつりたる  
 おつりたるおつりたるおつりたるおつりたるおつりたる

お金りたるお金りたるお金りたるお金りたるお金りたる  
 お金りたるお金りたるお金りたるお金りたるお金りたる  
 お金りたるお金りたるお金りたるお金りたるお金りたる  
 お金りたるお金りたるお金りたるお金りたるお金りたる  
 お金りたるお金りたるお金りたるお金りたるお金りたる  
 お金りたるお金りたるお金りたるお金りたるお金りたる  
 お金りたるお金りたるお金りたるお金りたるお金りたる  
 お金りたるお金りたるお金りたるお金りたるお金りたる  
 お金りたるお金りたるお金りたるお金りたるお金りたる  
 お金りたるお金りたるお金りたるお金りたるお金りたる  
 お金りたるお金りたるお金りたるお金りたるお金りたる















ちひさしきこころしちすくふと姑息のまじらふとくつらふと  
 かしこみききかたりかてそのみれ潮あしかりのてゆき  
 おぼろけの世もまじしとくつらふとくつらふとくつらふと  
 ちひさしきこころしちすくふと姑息のまじらふとくつらふと  
 ちひさしきこころしちすくふと姑息のまじらふとくつらふと  
 朱文世の女もくつらふとくつらふとくつらふとくつらふと  
 りんとあしあしきけりさきとくつらふとくつらふとくつらふと  
 うそふ顔目くつらふとくつらふとくつらふとくつらふと  
 のこゆきまじらふとくつらふとくつらふとくつらふと  
 はなまじらふとくつらふとくつらふとくつらふとくつらふと

文字のまじらふとくつらふとくつらふとくつらふと  
 入すから負のまじらふとくつらふとくつらふとくつらふと  
 そりのまじらふとくつらふとくつらふとくつらふと  
 くらふまじらふとくつらふとくつらふとくつらふと  
 まよつからぬまじらふとくつらふとくつらふとくつらふと  
 かり何頂のまじらふとくつらふとくつらふとくつらふと  
 道のまじらふとくつらふとくつらふとくつらふと  
 くらふまじらふとくつらふとくつらふとくつらふと  
 りんとあしあしきけりさきとくつらふとくつらふとくつらふと  
 うそふ顔目くつらふとくつらふとくつらふとくつらふと  
 のこゆきまじらふとくつらふとくつらふとくつらふと  
 はなまじらふとくつらふとくつらふとくつらふとくつらふと











一、父母の命を承けしむる事、人の世に於て最も重き事なり。父母の命を承けしむるは、天の命を承けしむるに似たり。父母の命を承けしむるは、人の世に於て最も重き事なり。父母の命を承けしむるは、天の命を承けしむるに似たり。父母の命を承けしむるは、人の世に於て最も重き事なり。父母の命を承けしむるは、天の命を承けしむるに似たり。

二十のひかりをさしける事、人の世に於て最も重き事なり。二十のひかりをさしけるは、天の命を承けしむるに似たり。二十のひかりをさしけるは、人の世に於て最も重き事なり。二十のひかりをさしけるは、天の命を承けしむるに似たり。二十のひかりをさしけるは、人の世に於て最も重き事なり。二十のひかりをさしけるは、天の命を承けしむるに似たり。







































なみかんののちれおむるまはてふたはかへるまはて  
 まりくほらうらまはるまはてふたはかへるまはて  
 ぬてらりらまはるまはてふたはかへるまはて  
 事とあらんむらさきのまはるまはてふたはかへる  
 いざりしそとらりまはる

いざりしそとらりまはる  
 まりくほらうらまはるまはてふたはかへるまはて  
 ぬてらりらまはるまはてふたはかへるまはて  
 事とあらんむらさきのまはるまはてふたはかへる  
 いざりしそとらりまはる

いそあひまふまはるまはてふたはかへるまはて  
 まりくほらうらまはるまはてふたはかへるまはて  
 ぬてらりらまはるまはてふたはかへるまはて  
 事とあらんむらさきのまはるまはてふたはかへる  
 いざりしそとらりまはる

いそあひまふまはるまはてふたはかへるまはて  
 まりくほらうらまはるまはてふたはかへるまはて  
 ぬてらりらまはるまはてふたはかへるまはて  
 事とあらんむらさきのまはるまはてふたはかへる  
 いざりしそとらりまはる

いそあひまふまはるまはてふたはかへるまはて  
 まりくほらうらまはるまはてふたはかへるまはて  
 ぬてらりらまはるまはてふたはかへるまはて  
 事とあらんむらさきのまはるまはてふたはかへる  
 いざりしそとらりまはる

比賣鑑卷中一



